

科目名	現代の部落問題	単位数	2	授業 形態	講義	担当 教員	齋藤 直子 (人権C 特任)
英語表記	Buraku Issues in Modern Japanese Society						

● 科目の主題

部落問題とは、どのような問題なのだろうか。部落差別は増えているのだろうか、減っているのだろうか。差別はなくなるのだろうか。日本社会の変化とともに、部落問題のあり方にも変化があるのだろうか。

また、部落問題は「もうない」「昔のことだ」、部落差別を「若い人はしない」という意見をいう人もあるが、一方で「厳しい現実はある」、「知らないだけだ」という意見もある。なぜ、これほどまで大きく認識が異なるのだろうか。

部落問題は、日本社会の構造と密接に関係した問題である。これらの問いについて考えることは、日本社会のある面について深く考えることでもある。

講義では、データや資料を用いながら、現代の部落問題がどのように生起しているのかを概観し、上記の問いについて考えていく。

さらに、2016年「部落差別の解消の推進に関する法律」が国会で成立し、施行された。この法が必要とされる背景には、どのような社会の状況があるのだろうか。部落問題に関する最新の議論についても考えていきたい。

● 授業の到達目標

どうすれば部落差別をなくすことができるのか、部落差別が生起した場面でどのように対処すべきか、部落問題に関する言説をどのように解釈するのか、人に対してどのように部落問題を教えるのかといった点について、学生ひとりひとりが自分自身で考えて意見を述べられるようになることを到達目標とする。

● 授業内容・授業計画

講義は、以下のような内容を中心におこなう。

- 1) 「部落問題とは何か」…ひとまずの定義
 - 2) 近年の差別事象から、現在の差別のあり方を考える
 - 3) 身元を調べるということ
 - 4) 結婚差別を考える
 - 5) もう一度「部落問題とは何か」を考える
- また、2回程程度、講師をお招きしての講義をおこなう。

● 事前・事後学習の内容

事前学習としては、前の回の講義レジュメに次回テーマを明記するので、そのテーマについて、各自で調べること。

事後学習としては、講義のレジュメおよび資料を読み直すこと。とりわけ、資料については、授業では主要な個所の説明にとどまることがあるので、全体を通読すること。また、講義で配布されたコミュニケーションカードのまとめを読み直し、他の受講生の意見を把握すること。

● 評価方法

出席、コミュニケーションカードの内容、期末の試験により判断する。

● 受講生へのコメント

授業では、毎回、コミュニケーションカードを配布する。講義への意見や質問を求めることもあれば、設定された質問への回答を求めることもある。コミュニケーションカードを通じて、双方向的に授業をすすめるので、ただ講義を聞くだけではなく授業を構成する一員として参加してほしい。

また、授業に関連した書籍を少なくとも3冊読むことを希望する。

● 教材

授業中に適宜、指示する。